

三村則子

回顧展

「夫・昌哲と二人三脚で育てた世界」



令和8年 4月18日(土) ~ 5月24日(日)

観覧料 一般 300円、大学生150円
(団体は20名以上2割引)

開館時間 9:00~17:00
(入室は16:30まで)

無料 {
・高校生以下及び65歳以上の方
・障害者手帳の所持者
・高松市キャンパスメンバーズ制度加盟大学の学生

休館日 月曜日(5/4(月・祝)は開館、5/7(木)は休館)

主催 高松市塩江美術館

《瑤池(白蓮)》(部分) 2006

高松市塩江美術館
Shionoe Art Museum



《鶏冠（鶏頭）》2006



《彼岸花》2001



《敗花》2001

型絵染作家・三村則子（のりこ）（1936-2018）は、油絵制作に励んでいた学生時代、型絵染に出会いました。芹沢銈介（せりざわけいすけ）（1895-1984）にはじまる型絵染は、沖縄に伝わる染色技法・紅型（びんがた）を基礎に、下絵、型彫り、染めの工程を一人の作家が一貫して行うことで、様式にとられない自由なデザインが可能になります。それまでの油絵制作で培ってきた素養も相まって独自の世界観を表現するに至った三村は、その後も高松市内の中学校で美術教師をしながら制作を続けました。

1990年、大病を患ってからは、自宅の庭や散歩途中の道端にある見慣れた草花がまるで造形を尽くした生命の塊のように目に映るように変化したと述べています。ごく身近にあった限りなく華やかな世界、その感動を多くの人々に伝えるべく、2018年に他界するまで、同じく芸術家で美術教師であった夫・昌哲と二人三脚で描き続けました。

本展では、日々の散歩の折々に心惹かれるままにスケッチした下絵をもとに作成した《豊穡》（1996年）や《瑤池（白蓮）》（2006年）を中心に約 35 点の作品を紹介します。作品の生み出す凜とした空気と、身近な草花が持つ生命の美しさをぜひご堪能ください。

【略 歴】

- 1936年 香川県生まれ
- 1959年 香川大学学芸学部4年生中学課程（美術研究室）卒業
- 1994年まで美術教師として高松市内の中学校を中心に勤務
- 2018年 逝去

■主な展覧会

- 1973年 三村昌哲・則子「絵と染の二人展」（宮武画廊）（1976年から2006年まで隔年開催）
- 2005年 個展（高松市美術館市民ギャラリー）
- 2008年 個展（歯 ART 美術館）
- 2011年 三村昌哲・則子「絵と染の二人展」（ぎやらりい風）（2012年）
- 2013年 三村昌哲・則子「絵と染の二人展」（クローバーカフェ）（2018年まで毎年開催）

■受賞歴

- 1956年 全日本染色コンクール金賞
- 1959年頃 現代工芸香川会新人賞
- 1997年 国民文化祭染色部門大賞

【関連イベント】

ギャラリートーク ※内容については、変更になる場合があります。

内 容：作品を通して三村則子氏の人となりやその人生についてお話しします。

- 開催日：令和8年4月18日（土）
- 講 師：三村昌哲氏（画家、三村則子の夫）
- 時 間：14:00～（30分程度）
- 場 所：塩江美術館企画展示室
- 対 象：一般
- 定 員：なし
- 参加料：観覧券が必要

高松市塩江美術館 Shionoe Art Museum

自動車
 ・脇町ICより約25分
 ・高松中央ICまたは高松西ICより約40分

公共交通機関
 ・JR高松駅から約80分

飛行機
 ・高松空港よりタクシーで約20分

〒761-1611
 香川県高松市塩江町安原上602
 TEL：087-893-1800

